



かん まち
上町法印神楽 (豊里)

上町法印神楽は、豊里町稲荷神社の例大祭に奉納されてきた神楽で、県指定無形民俗文化財にもなっています。稲荷神社が現在の場所に移されたのは寛文2年(1662)と伝えられており、上町法印神楽は、旧暦の9月15日に山伏の法寿院が中心となって、開拓の竣工と豊作を祈念した例祭を行った際、奉納されたものが始まりといわれています。

法印神楽は、東北地方独特のものとして出羽三山などの各地の霊山で修行する山伏などによって伝えられてきたもので、上町法印神楽もその一つと考えられています。

もともと神楽は仏教的な信仰色の濃いものでしたが、長い年月や時代の政策などにより、神道的な形となって現在に伝わっています。

上町法印神楽は、神話などを題材に舞人が「カンナギ」というせりふを、胴取りと呼ばれる太鼓打ちが神歌を唱え、それにあわせて笛が曲調を奏でます。

現在は、毎年10月の体育の日の前日に開催されている稲荷神社の例大祭に奉納されています。

【所在地】 登米市豊里町新町10番地1
【問い合わせ】 稲荷神社 ☎ 0225 (76) 4578

歴史博物館

広報ミニ展示室 35

＝ 小野篁歌字尽 ＝

「小野篁歌字尽」は江戸時代の「往來物」といわれる教科書の一つです。長い年月の間に何種類も出版されていますが、博物館で所有しているのは文政2年に仙台の伊勢屋半右



さまざまな漢字が歌になっています

工門から出版されたもので、寛政11年に江戸で出版されたものと内容も挿絵も似ていますが作者は不明です。題にある小野篁とは、平安時代の歌人で、三蹟といわれる書の達人小野道風の祖父にあたる人物です。この本は、部首の違う漢字を並べ覚えやすく歌にしてあり、例えば「椿・榎・楸・柗・桐」の文字は「春つばき、夏はえのきに、秋ひさき、冬はひいらぎに、同じくはきり」などと読み書きが苦手な人でも、楽しみながら学べるように工夫してあります。

登米市スポーツ講演会

講師 北京オリンピック ソフトボール
女子日本代表 上野由岐子 選手

金メダルを取るまでの道のり



講師 上野 由岐子 選手

- ◎日時 3月19日(木)
午後6時30分～
※午後5時30分開場
- ◎場所 中田総合体育館
※上履きをご持参ください。
- ◎入場料 無料(全席自由)
※整理券必要
- ◎整理券 教育委員会各事務所、迫体育館、登米・中田総合体育館で、3月2日(月)から配布します(郵便では受け付けしません)。
- ◎内容 記念講演として、金メダルを取るまでの道のりを、さまざまなエピソードを交えながらお話いただきます。
- ◎問い合わせ 市教育委員会体育振興課 ☎ 0220 (34) 2649

【プロフィール】 上野由岐子。2004年アテネオリンピック銅メダリスト、2008年北京オリンピック金メダリスト。1982年7月2日生まれ、福岡県出身。小学3年生からソフトボールを始め、中学3年のときに全国制覇をする。九州女子高のときもエースとして国体で優勝。2年の時最年少で参加した世界ジュニア選手権で優勝に貢献。ジュニア離れた速球でオリエンタル・エクスプレスの異名を取る。2001年実業団女子ソフトボール部(ルネサステクノロジ高崎事業所)に入部。2006年の世界選手権では世界一のアメリカを封じ込めたものの惜しくも銀メダルとなる。2008年北京オリンピック準決勝のアメリカ戦、決勝進出決定戦のオーストラリア戦と2試合続けて登板。翌21日のアメリカとの決勝戦も先発して完勝勝利、2日間3試合を投げ抜き、日本の金メダルに大きく貢献。



モバイルとめ
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス登録
tome@entry.mail-dpt.jp (携帯用)